

Create a NICHE market



# 橋本電子工業株式会社



会社外観

## 企業概要

代表取締役社長

橋本 正敏氏



**所在地** 松阪市高須町3866番地12  
TEL:0598-51-3111(代) FAX:0598-52-1417(代)

**設立** 1985年(昭和60年)5月

**資本金** 2,000万円

**従業員数** 75人(2021年3月現在)

**事業内容** 計測・制御機器および医療機器の設計・製造・販売

**URL** <https://www.hashimoto-inc.co.jp/>

優れた技術は分野を超えて、あらゆることを可能とします。

## 地元・松阪から新たな出発

橋本電子工業株式会社は、松阪市に社屋を構える計測・制御機器および医療機器の設計・製造・販売を主事業とする会社である。計測・制御を得意分野とし、自社製品だけでなく他社の受託製造であるOEM(※)も数多く行う。専門的技術と時代の先を読むアイデアを武器に、トツチ市場、特に近年は医療機器分野における画期的製品を生み出している。

創業者である橋本正敏社長は1973年に松阪立石電機(現オムロンヘルスケア)に入社。そこで技術者として腕を磨いた。しかし、入社から3年後、会社の経営悪化により松阪工場が撤退の危機に直面する。「従業員の雇用を守るために労働組合を結成すべき」との周囲の勧めもあり橋本氏は労働組合を立ち上げた。当時28歳の橋本社長が選挙で推され、労働組合執行委員長として会社の再建に携



創業当時の橋本社長

わるとわずか3年で会社は黒字転換し、工場は撤退を免れたのである。

ほどなくして橋本社長は「自分の事業をしたい」と退職を決意し、1983年に橋本電子工業を設立した。独立当初、オムロンから仕事の依頼があったが、橋本社長はありがたく思いながらもそれを断った。「同じことを続けていては独立した意味がない」と考えたからである。最初に請けた仕事は大手電機メーカーの電磁リレー用特性検査機であった。独立後2年間は1人、自宅で仕事を続けた。85年に株式会

(※)OEMとは委託者のブランドで製品を生産すること。  
ODMとは委託者のブランドで製品を設計・生産すること。



ODM商品のセキュリティ機器



社化した直後、プラザ合意後の円高により取引先の経営に大きな影響が出たことで、同社もそのあおりを受けた。当時の苦い経験から「特定の取引先に集中する経営は行わない」と心に決め、複数の取引先を常に持つようにしたという。

精神的な営業活動のおかげで、86年より自動車部品に使われるハーネス用導通機、劇場やホール用の床を自動作動させる劇場用床制御システム、セキュリティ機器の開発など様々な業界の仕事に携わってきた。多種多様な人々と交流する中で優れた研究者や業界のキーマンとの縁が生まれ、切磋琢磨し協力しながらこれまでになかった製品を世に送り出してきた。

### 世界初の全自動多機能リポソーム製造装置

同社の歩みの中で大きな転換点となったのが07年の医療機器分野参入である。第三種医療機器製造販売業許可を取得後、蓄尿検査装置及びカップ洗浄機販売を開始。08年にはみえメディカルバレープロジェクトの支援を受け、三重大学と共同で世界で初めて全自動多機能リポソーム製造装置の開発に成功。リポソームとは生体成分の脂質からなる0.1〜0.2マイクロメートル程度の大きさの膜小胞に医薬やDNA、抗体などを包み込んで人体の特定の患部に送り届けるためのカプセルである。リポソームの製作は熟練の研究者で



多機能リポソーム自動製造装置

も10時間以上の時間を要したが、この装置を使えば未経験者でも1時間で再現性の高いリポソームが製造可能となった。以降、様々な特徴を備えた各種リポソーム自動製造装置を開発・販売している。

### 頸動脈の血流から栓子の有無を測定

11年には、東京慈恵会医科大学とともに血流中の栓子(せんし)の有無を調べる超音波頸動脈血流モニター「FURU HATA」を開発した。栓子とは日本人の死因率2位の心疾患、3位の脳血管疾患の主要原因とされる血栓を起す微小な異物である。

栓子が測定できる海外製装置は存在するが、その測定方法は頭蓋骨の薄い部分に超音波を通して中脳動脈から栓子を検出するというもの。頭蓋骨に厚みがある日本人には不向きであることからあまり普及して

いなかった。

同社が開発した「FURU HATA」は首側面の頸動脈にプローブと呼ばれる小さな装置を貼り付けるだけで簡易かつ負担なく血流中の栓子を検出できる。この装置は現在、全国の大病院や研究機関で使われている。

近年、日本では大地震や災害が頻発し、多くの人が長期の避難生活を余儀なくされている。避難所や車中では十分に体を伸ばしたり休めたりすることができない場合もあるため、長時間同じ姿勢をとることによって血流が悪くなり、血中にできた血栓が肺の静脈を詰まらせる「エコノミークラス症候群」を発症する例が報告されている。発症すると最悪の場合、死に至ることもあり早期発見と予防が必要となる。「FURU HATA」は04年の新潟県中越地震および07年の中越沖地震の被災地域でのエコノミークラス症候群のフォローアップ検診に用いられている。

そして20年には新型コロナウイルス感染症が発生、その脅威は

FURUHATAモニタリング画面



動脈、静脈の両方で血栓塞栓症が高い確率で起こることがわかってきた。血栓による病態が新型コロナウイルスの急激な症状悪化の原因と考えられており、「血栓の発生を早期発見し、新型コロナウイルス感染症の治療に役立てられないか」と橋本社長は話す。

### 実験を効率的に行うためのZFプレート

13年には三重大学と共同で研究支援装置の「ZFプレート」を開発。これは創薬スクリーニングに使用される実験動物であ

るゼブラフィッシュの稚魚を、マイクロプレート上で効率よく整列させるために開発されたものである。通常のマイクロプレートでは注入した小さなゼブラフィッシュを手作業で整列させていたが、ZFプレートは手間なく整列時間を短縮でき、実験観察を効率的、定量的に進めることができる。これは全自動多機能リポソーム製造装置の開発過程で得た技術がもととなって開発された。

### 常に挑戦し続けるために

数々の画期的製品を生み出してきた同社は、「最新技術に挑戦し続けること」、「信用され続けること」、「ニッチであり続けること」の3つを会社の精神として掲げている。同社が大学や研究機関、ベンチャー企業と多くの共同研究を続ける根底にはこれら

の精神が息づいている。また、中小企業では数少ない、仕様検討から設計、試作、量産までの一貫体制をとるとともに、設計を担当した技術者が製品全体のマネジメントを行うことで

社員がものづくりに全力を傾けられる風土がある。

このような職場は技術者にとつてやりがいがある反面、常にアンテナを張り自己研鑽を続けなければならない気の引き締まる環境でもあるだろう。しかしその社風に惹かれ、遠方地域から入社を決めた社員もいる。「技術者は技術が好きでないと務まらない」と橋本社長。社内勉強会の開催や社員から意見を直接聞ける機会をつくり、自ら考え勉強し挑戦できる社員の育成を行っている。

### 愛郷心ある人材育成と地域への貢献

松阪に生まれ、一家の長男として育った橋本社長。「当社は社員が地元で成長し、地元の文化を知り、地元や三重県の未来を考え続けられる人材育成の場でありたい」と話す。

地域人材の育成と同じく地域貢献も重要との考えから「社会貢献休暇」という制度を設けており、PTA活動や施設の慰問、祭りへの参加など様々なかた

ちで地域社会に貢献できる休暇として社員に利用されている。

「今後は医療分野、セキュリティ分野の生産拡大、そして大手企業に負けない高い技術力を活かした自社製品の開発に力を注いでいく」と橋本社長。磨き上げた技術とアイデアでこれからも世界を切り開いていこう。

文〓会員事業部 鈴木理可

### 支店より一言

同社設立から現在まで、数多くの「挑戦」を続けてこられた橋本社長。「挑戦」の結晶として生まれた製品について語られる姿は自信に溢れ、目は輝いており、惹きつけられる魅力をお持ちです。社内も活気に満ちており、橋本社長の思いが従業員の皆様に浸透していることが窺えます。時代にマッチした製品と共に、同社の名が三重県から全国、そして世界に響く日が来ることを確信しております。



百五銀行 六軒支店長 矢野 雅義